

2. 事業の目的と概要 School buildings which have been used for a long time and need rehabilitation in the Erbil Governorate of the Republic of Iraq will be rehabilitated and become safe and comfortable. By encouraging teachers in voluntary maintenance of the school buildings through workshops, each school will keep safe and comfortable conditions.	
(1) 上位目標	イラク共和国エルビル県の老朽化した学校校舎が、本事業の補修工事によって安全で快適な施設に改善される。またワークショップを通じて教員に校舎維持管理への主体性を促すことにより、各々の学校現場で安全かつ快適な状態が持続する。
(2) 事業の必要性（背景）	(ア) イラク共和国は 2014 年以來、過激派組織 ISIS から国土を取り戻すための戦闘が現在も繰り広げられている。クルド自治政府もこの戦いに参加し、一方で 88 万人の IDPs、24 万人のシリア難民を受け入れている。クルド教育省も職員が急増した難民・国内避難民生徒の対応に追われ、停滞している事業も多い。学校補修もその一つで、エルビル県内だけでも補修が必要な学校が 2017 年 4 月時点で 350 校¹に上っている。度重なる紛争等による物資不足により、粗悪な建材、旧式設備等が原因で、破損が多い。本事業では、エルビル市内の中で、教育省が「老朽化」もしくは「生徒数が多く、劣化が激しい」ということで早急に工事を進めて欲しいとする 7 校を対象としている。2017 年 4 月に在エルビル日本領事館主催の会合でクルドの教育大臣と面談した際にも、学校の補修事業をぜひ継続してほしいと弊団体に直接要請があった。 (イ) 本事業は「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標 4. 「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。」に該当する。特に、4.1「すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする」ためには、補修工事で安全な校舎を確保することが重要と考える。 (ウ) 外務省の対イラク支援方針における重要分野の一つとして「生活基盤の整備（保健医療・教育サービスの向上を含む）」があがっており、学校補修を実施する本事業は国別援助方針に沿っている。 (エ) 幣団体は、エルビル県において 2016 年度に日本 NGO 連携無償資協力でホストコミュニティと IDPs の生徒両方が通う 4 校舎 8 校の補修を行った。またジャパン・プラットフォームの支援を得て、IDPs 用のプレハブ校舎を 2015 年度～2017 年度に計 3 校建設した実績を持つ。 また、ソフトコンポーネントでは、昨年度実施し成果が出ている、補修後の維持管理をテーマにした教員対象のワークショップを本年度も実施する²。 イラクでは「校舎の掃除は掃除人がやるもの」「生徒に掃除をさせてはいけない」という慣習が強いと言われていた。一方で、学校現場

¹ この数字は、クルド教育省が各地域事務所情報を取りまとめた数字である。

² 昨年度ワークショップに参加したマム小学校のアクションプラン実行度は 99%だった。

	は 14 年以降の経済危機で教員給料が 50%減給となり、掃除人を雇える日数も減ったため、補修後の維持管理が危ぶまれた。そこで弊団体から「ワークショップを通じて、日本の学校のように、教員や生徒自らが掃除を行う習慣を根付かせてみては」とクルド、イラクの両教育省に提案し、同省職員も参加して 2 回のワークショップが開催された経緯がある。その結果、参加した教員の意識に変化が見られ、また危惧されていた生徒が清掃を行うことへの強い抵抗もなく、補修を行った 8 校全部の学校で、維持管理を一般教員や生徒と共に行っていく取り組みにつながった。しかし、まだわずか 8 校と緒に就いたばかりである。補修工事を行うにあたり、本年度も補修対象 7 校舎 10 校合同の教員ワークショップ及び 4 か月間のコンサルテーション³を支援していく。2 つのフェーズを通し「教員や生徒が清掃活動を行うことによる校舎の維持管理」が、同地域の他の学校へも徐々に浸透していくことが期待できる。昨年度は校長と教頭のみワークショップに参加してもらったが、直接的な清掃活動の実施を担う他の教員や生徒を積極的に取り組みに参加させることが課題となっていたので、本事業では校長と教頭の他に教員 1 名にワークショップに参加してもらい事業の効果を高める。ワークショップには、前回の事業で教員や生徒の参加による清掃活動が成功したチュワチラ校を講師として招聘し、活動事例を発表してもらおう。チュワチラ校の活動状況を知ることにより、ワークショップ参加者が清掃活動の実現に向けて具体的なイメージを持てるようにする。 (1) ハルマツト男子高校の補修 ・クルドの全日制男子校と定時制男子校だったが、2014 年度以降、国内避難民 (IDP) 用の男子高校が置かれ、3 校が古い校舎を共用している。生徒数は 3 校合わせて 1200 人である。 ・2017 年 5 月現在の国内避難民 (IDP) の生徒数は 450 人で、2016 年 9 月の 303 人と比べると約 50%増加しており、補修のニーズも増している。 ・ホールの壁の破損・電気系統の破損・雨漏り、トイレの破損、階段の破損等問題が多く、危険箇所も多くなっている。 (2) ヒドヤブ小中学校の補修 ・2 シフト制の学校で、生徒数は合計 300 人である。 ・2014 年から 2016 年の間、IDP の臨時シェルターとして使用されたため破損が激しいが、学校として再び使われ始めてからも補修されていない。 ・1965 年に建てられた非常に古い校舎を使用しており、トイレ、上下水道設備、ドア、窓等が破損しており、早急な補修が必要である。 (3) ナバズ小学校の補修 ・児童数は 470 人である。 ・1988 年に建てられた古い校舎を使用しており、電気設備、トイレ、
--	--

³ 昨年度実施した全 8 校がアクションプランが根付いて清掃レベルが上がるまでに 3～4 カ月を要しているため、この期間のコンサルテーションが重要である。

	外壁、水のみ場、窓、ドア等が破損しており、早急な補修が必要である。 (4) ヒワ小中学校の補修 ・ 2005 年に建築された学校であり比較的新しくはあるが、校舎のサイズに対しての生徒数が多く、傷みが激しい。特に水道関連の補修は衛生面にも関わるため急務である。 ・ 2 シフト制の学校で、生徒数は合計 1207 人である。 ・ 電気設備、上下水道設備、外壁、正門、トイレ、廊下、窓、ドア等が破損しており、早急な補修が必要である。 (5) チマン女子高校の補修 ・ 生徒数は 300 人である ・ 1981 年に建てられた古い校舎を使用しており、電気設備、上下水道設備、トイレ、ドア、教室の壁、窓等が破損しており、早急な補修が必要である。 (6) シャルスタニ女子高校の補修 ・ 2 シフト制の学校で、生徒数は合計 975 人である。 ・ 1988 年にてられた古い校舎を使用しており、電気設備、トイレ、ドア、ホールのステージ等が破損しており、早急な補修が必要である。 (7) カンヤウ小中学校の補修 ・ 設立年数は 2011 年と比較的新しいが、本事業の補修対象学校の中でも一番生徒数が多いマンモス校であるため、使用頻度が高いため痛みが激しく、補修が必要な箇所が多数ある。 ・ 小学校と中学校の 2 校が共有しており、児童数は 887 人、生徒数は 468 人の合計 1355 人である。 ・ ユニセフにより電気関連の一部補修は行われたが、ドア、トイレ、廊下、校庭の一部が破損したままのため、早急な補修が必要である。
(3) 事業内容	【コンポーネント 1：校舎の補修】 エルビル県で老朽化が進んでいる 7 校舎を補修する。 補修対象校：ハルマツト男子校、ヒドヤブ小中学校、ナバズ小学校、ヘワ小中学校、チェマン女子高校、シャルスタニ女子高校、カンヤウ小中学校 1-1 クルド教育省・施工業者との協議 事前に弊団体、各校の校長、教育省が現場を調査し決定した補修箇所 B0Q に基いて 3 者見積もりを取った。施工業者選定には、価格の適正と該当箇所を予定期間内に完了できるキャパシティがあるかを考慮の上、決定した。(別添 3 社見積もり一覧参照) 各校とも施工開始前にクルド教育省、施工業者、弊団体で、補修箇所とスケジュールの確認を行う。 1-2 学校補修のための施工

施工のスケジュールは 8 月～11 月を予定している。それぞれの補修箇所と施工の詳細については、クルド教育省のエンジニア部から弊団体へ Bill of Quantities が提出されている。各校の補修箇所の概要は以下の通りである。

・ハルマツト男子高校

補修箇所（一部）：講堂（屋根の補修、PVC 窓枠とガラスの設置、吊天井の設置、木製ドアの設置等）、階段の補修、トイレ（セラミックタイルの補修、洗面台の補修、換気扇の設置等）

・ヒドヤブ小中学校

補修箇所（一部）：トイレ（便器・蛇口の交換、浄化槽と汚水だめのカバー設置、換気扇の交換等）、水パイプの補修、電気関連（蛍光灯・電球の交換等）、天井扇の補修、ドアの補修、防犯カメラの設置等

・ナバズ小学校

補修箇所（一部）：校舎屋根の補修、正門の補修、トイレ（洗面台の交換、換気扇の設置等）、水パイプの補修、マンホール・汚水だめの補修、電気関連（蛍光灯・電球の交換等）、冷水機の設置、防犯カメラの設置等

・ヒワ小中学校

補修箇所（一部）：電気関連（蛍光灯・電球の交換等）、壁の亀裂の補修、トイレ（便器・蛇口の交換、換気扇の設置等）、防犯カメラの設置、窓・ドアの補修等

・チマン女子高校

補修箇所（一部）：電気関連（蛍光灯・電球の交換等）、屋根の補修、ドア・窓の補修、トイレ（便器・蛇口の交換、フラッシュタンクの設置等）、水タンクの設置、水パイプの補修、防犯カメラの設置等

・シャルスタニ女子高校

補修箇所（一部）：トイレ（便器・蛇口の交換、パイプの補修等、壁及び床タイルの交換）、ドア・窓の補修、屋根の補修、ホールのステージの補修、校舎結合部の補修等

・カンヤウ小中学校

補修箇所（一部）：ドアの補修、トイレ（便器・蛇口の交換等）、冷水機の設置、防犯カメラの設置等

1-3 施工の進捗確認と完成の確認

工事期間中は、工事の監督を担当するクルド教育省のエンジニアと弊団体スタッフ、業者のエンジニアの間で随時ミーティングを行い、施工が予定に沿って実施されるように確認する。完成の確認は、クルド教育省、施工業者、弊団体スタッフにて行ったのち、クルド教育省と工事完了と維持管理に関する覚書（MoU）を取り交わす。その後、同補修された学校が教育省の責任で維持管理される。

	【コンポーネント 2: ワークショップ等を通じ、教員の主体的、持続的な維持管理意識の醸成】 本事業で補修された学校を維持管理していくためには、これまでの慣習にしばられずに教員自らが維持管理に対し主体的に関わっていく意識を持つことが必要である。そこで意識を醸成するため、10 校の教員を対象にワークショップを開催する。ワークショップでは、学校ごとに維持管理を目的としたアクションプランを作成する。対象教員は校長・教頭・一般の教員（主に維持管理担当と校長が任命した教員）とし、各学校 3 人ずつに参加してもらう。昨年度の学びから、より生徒との距離が近く直接的に清掃活動を実施できる一般の教員も招聘する。また教育省職員 1～3 人、エンジニアにも参加をしてもらい、各学校のアクションについてフィードバック、アドバイス等を行ってもらう。 2-1 第 1 回ワークショップ開催（2 か月目） ①昨年度の補修前の学校の状態と補修後の現状を紹介 ②昨年度のグッドプラクティス—チュワチラ女子高校の実践例（※別添参照）を当校教員から発表してもらう ③学校が劣化・破損する原因、解決方法についてグループ討議し、発表する ④教員が修理を行えるよう、エンジニアによる補修講義、実技 ⑤維持管理について、学校ごとにアクションプランを立案し、発表し、共有する。 ⑥アクションプランがゴールと結びついているか、計画倒れにならないか等を再度確認し、最終案と指標を作成する。 2-2 モニタリング及びコンサルテーション（3 回） ①弊団体スタッフが各学校を訪問し、アクションプランの進捗、効果について、校長、担当教員より報告を聞く。 ②現場確認 ③弊団体スタッフによる助言を行い、また校長、教員からの相談にのる。 2-3 第 2 回ワークショップ開催 ①各校のアクションプラン実施中の状況を、実施している教員が写真を用いプレゼンする。 ②アクションプラン、指標の到達度、残る課題と解決方法等について、各校で話し合い、他校のプレゼンを参考にしながら、アクションプランの見直しを行い発表することにより、経験を共有する。 2-4 最終モニタリング及びコンサルテーション（1 回） 直接裨益人口 生徒 5717 人（ホストコミュニティ 5267 人、国内避難民 450 人） 教員 356 人（ホストコミュニティ 321 人、国内避難民 35 人）
--	--

	合計 6073 人
(4) 持続発展性	本年度も 10 校合同の教員ワークショップを開催することにより、教員同士が互いに刺激し合い、各々の現場で主体的、持続的に維持管理を行っていく。補修工事完了後にはクルド教育省と MOU を締結し、同省が維持管理の責任を負う。
(5) 期待される成果と成果を測る指標	成果① 老朽化した学校が補修され、教員・生徒が安全で快適な学習環境で学ぶことが出来るようになる。 成果を測る指標① 補修工事が工程・BOQ に沿っているか、クルド教育省エンジニア、弊団体エンジニアで確認し、5 段階評価をする。全ての項目で 4 以上を得る。 成果② ワークショップ、アクションプラン、モニタリング、コンサルテーション等を通じ、教員自らが主体的、持続的な維持管理体制をつくることのできる。 成果を測る指標② 最終のモニタリングでアクションプランの到達度、維持管理及び校舎の維持管理の状態が教師、弊団体スタッフとも 100 点満点で 70 点以上となる。

(ページ番号標記の上、ここでページを区切ってください)